

## 令和5年度 第1回 田尻町一貫教育審議会 議事録

### 1 開会及び閉会の年月日時及び場所

開 会	令和5年7月11日（火）午前10時00分
閉 会	令和5年7月11日（火）午後12時00分
場 所	田尻町教育センター 2階 一般教室（大阪側）

### 2 会議に出席した者の職及び氏名

委員	二宮 衆一委員、田口 春加委員、妹尾 晃典委員、森下 かおり委員、中村 まき子委員、池本 勝利委員、織田 容子委員、明貝 一平委員、西阪 純也委員、栃木 孝正委員、田津原 淳委員
事務局職員	馬野教育長、米良教育部長、伊賀教育管理課長、澤谷一貫教育推進課長 水上一貫教育推進課参事、水野一貫教育推進課主幹

### 3 案件

#### ①教育長あいさつ

審議会開催の趣旨説明と各委員への就任のお礼のあいさつを行いました。

#### ②委員紹介

委嘱状の交付を行い、各委員及び事務局職員の紹介を行いました。

#### ③会長の選出

委員より、二宮委員を推薦する声があり、全会一致で決定しました。

#### ④会長あいさつ

二宮会長より、会長就任にあたってのあいさつを頂戴しました。

#### ⑤（議事）報告事項について

事務局より「令和4年度までの経過」と「福井県敦賀市立角鹿小中学校視察について」報告しました。説明後、各委員より頂戴した質問・意見については下記のとおりです。

（委 員）角鹿小中学校はデザイナー等が入ってつくられたのですか。

（事務局）東畑建築事務所が手掛けた学校で、この業者は、現在進めている基本構想に参加いただいている企業になります。今回の視察にも同行いただき、プラスアルファの説明もしていただきました。

（委 員）田尻と角鹿では子どもの数が倍になるが、大きさはどのように考えていますか。

（事務局）人数については、開校まで7～8年あり、人口推移を見ていき、その中で教室配置も考えていきます。子どもの学習環境としてプラスアルファのスペースの教室が必要となると、1つの教室が大きくなります。また、特別教室は普通教室の2倍程度の大きさになります。普通教室の大きさが大きくなると、その分特別教室も大きくなります。プラスメディアセンター

やホール等をつくると、必然的に角鹿よりも高くならざるを得ないと考えられます。4階や5階といった検討も入ってきます。

(委員) 角鹿は何階建てですか。

(事務局) 3階建てです。

(委員) 2階と3階で分けているんですか。

(事務局) 2階が小学校、3階が中学校になっています。

(委員) 4階、5階建てになるとエレベーターが必要になってきますよね。

(事務局) 3階建てであったとしても、今後のことを考えるとエレベーターは必須だと考えています。それを子どもたちが日常的に使用するかどうかは別の問題として考えていく必要があります。

(委員) 敦賀市の中で角鹿の位置関係を教えてもらえますか。

(事務局) 大雑把に言うと海側になります。敦賀駅から徒歩10分かからないぐらいの位置になります。

(委員) 角鹿は災害時に浸水などに指定されていますか。

(事務局) されていないと聞いています。

(委員) 角鹿は令和3年4月の開校に向けて、統廃合等あったのか。その経緯を教えてください。

(事務局) まさに、こちらの学校は統廃合しています。小学校3校と中学校1校が合わさったと聞いています。合わせても田尻の半分くらいなので、どこも小さかったと聞いています。

(委員) 角鹿の近くには保育所・幼稚園はあったか。また交流はどのような感じだったか。

(事務局) 近隣には保育所や認定こども園があります。今まさに質問された内容を視察当日に質問したところ、先方は大変答え辛そうだったんですけど、就学前との交流は大変乏しいとのことでした。

(会長) 就学前と小中学校では施設面でも必要になってくるものや、スペースとしても求めるものが違ってくるかと思います。視察報告を聞かれてこれはいいとか、就学前の観点からすると、こういうスペースが欲しいとかありますか。

(委員) 小中学校は教室が授業の基本になると思います。だけど、就学前では生活の場になるので、角鹿の低学年の部屋にあったように教室に手洗い場があったり、保育室からトイレが近かったり、トイレも用を足す場所と着替える場所が確保されていれば、プライバシーを守りながら生活しやすいのではないかと思います。あとは園庭など戸外へ出るときの靴箱であるとか、園庭に出やすい動線というのは必要になってくるのではないかと感じています。

(会長) 特別支援教育の視点からご意見が頂ければと思います。

(委員) 私は支援学校の教員ですので、小中学校の先生とは視点が違うのですが、やっぱり学習に使えるスペースがあるというのは、教員として非常にワクワクするというか、私もすごく狭かった佐野支援学校から泉南支援学校に転勤したときに、非常に使えるスペースがたくさんあって、そのときに、どんな授業しようかとワクワクしていろんなことをしたんですけども、今はだんだん子どもたちが増えてきて、場所が狭くなってやれることが限られてきて、子どもたちにもっとワクワクする授業をしてあげたいのに、場所の制限があってできないというのが心苦しくてというのがあるので、スペースがあるというのはそれだけで嬉しいと思います。それが小中学校の先生たちが同じように嬉しいのかはわかりませんが、ただ、先日参観させていただいた小学校で、図工の授業でコリントゲームをつくって、遊び合いっこしようというような授業をされていたんですけども、非常に狭い教室の中で子どもたちが行き来して、人のコリントゲームで遊ぶということをすごく狭いスペースでやっていて、

それが今の小学校の先生は当たり前だと感じていると思うんですが、やっぱりスペースがあると、もっと展開のしようがあると感じました。場所が広いというのは教育のいろいろな可能性があるというので、魅力的だなと思ったことが1つ、ともう1つはですね、一方でただ広いスペースであることで、集中がしにくくなるというお子さんがいるというのも間違いないと思います。ちょっと極端な話になるんですが、私たちが運動会の練習を運動場でやっている時と、雨天になってしかたなく体育館で練習した時とでどちらの集中力が上がるかと言ったら、体育館なんですね。やっぱり壁の区切りがあるというのは、子どもたちが集中すべきことに集中しやすくなるというところがあるので、あまり開けすぎてると集中を妨げられるお子さんがいるときに、パーテーションがあったりすると、狭くもできるし、広くもできるといった方が、ひよっとすると使いやすいのかなと思いましたけれども、そういうお子さんも一部だと思いますので、絶対にいいというわけではないですが、1つの観点として入るのかなと思います。

(会 長) ありがとうございます。少しお伺いしたいんですけど、先程スペースの広さというお話がありましたけれども、特別なニーズを抱えている子どもたちが、ちょっと休憩したりとか、心を落ち着けるために、1人で落ち着いたりとか、先生と2人でゆっくり話して落ち着くといったスペースはどうなんでしょうか。

(委 員) それがなく困っているという先生方や子どもさんがいるというのはいろんなところにおられるというのは聞きますね。とにかく広い場所はそうですし、狭くて個別に使えるスペースとか多様なスペースがあると、いろいろな可能性が出てくるのかなと思います。

(会 長) はい。ありがとうございます。では、学校外の社会教育の視点から、学校に出入りをしたりとか、学校の先生方と連携したりしていくということで、今日見ていただいた中で、こういうものがあつたのかとかというものがあればいいのにというものがありましたら是非ご意見をいただきたいなと思うのですが。

(委 員) 学校教育ということに関しては、今回の施設は理想だと思っています。プラスアルファのスペースは必ず必要だし、近隣でも泉南中学校の建て替えでもそんな感じになっていると思います。能勢ささゆり学園でもそういうスペースがあつたと記憶しています。そこで今回なかったのが、地域の方がどこまで入ってこれるのか、田尻でいうと「なかよし」学童保育のスペースもいると思います。一貫して僕は現地建て替えまだ反対の身なんやけど、やっぱり上に上ということで、進めていかなこの場所ではしんどいと思ってます。上に上ということの中でどれだけ地域の方がここまで入れるというさっきの中庭みたいなところを、もっと社会教育・地域教育の観点からもう少し欲しいなと思いました。それと、僕はエンゼルを建て直した時のPTAの会長をやってて、当時非常に斬新な形で見た目はすごくよかつたんですが、ただ僕の知り合いの建築士に言わせると、えらい金かけたなど。奥に入った窓とかメンテナンスが大変やでと言われました。せりあがるステージを始めて動かそうとしたとき、バキバキと木が当たって。だからデザインに凝ると、なかなか後のこともしんどいということもあって、ある程度のデザインは欲しいんです。やっぱり建て替えて「すごいな」というのは欲しいんだけど、あんまりそこに執着するんじゃなくて、中身、教室の使い勝手とか、あと地域の人がどれぐらい入ってこれるか余裕があるとかそこらへんが気になったところですね。

(会 長) はい。ありがとうございます。先程のご意見の中にもあつたんですが、角鹿小中学校の方では、社会教育、学校外の人たちとの交流とか、どれぐらい入ってくるのか、その辺りはどんな状況だったんでしょうか。

- (事務局) 地域とのかかわりということで、学童は入っております。ただ施設と一体的になっているのではなく動線が区切られておりまして、ちょっとご説明が難しいんですけども、体育館も離れているのと同じような形で校舎からは少し離れた形になっています。通路としてはつながっているようなイメージで入っております。だから子どもたちは一旦校舎に入って、出るときには靴を履き替えて、学童に入るときにはまた靴を履き替えるといった形になっておりました。あと地域との連携ということでも、コミュニティスクールの設置状況もお聞きしたんですけど、それはまだできていないとのことで、地域との連携はまだ乏しいというのが現状かなと感じました。ただメディアセンターでは子どもたちの交流がよく行われているとのことでした。
- (委員) 福井県は学校教育は先進的で学力も高いんですが、社会教育というとそんなに有名じゃないんです。僕の耳には入ってこないくらいなんでそんなに有名ではないと思います。やっぱり折角造るんだったら子どもたちの交流、世代間の交流は非常に大事だと思うんです。これからは地域との交流が絶対必要になってきます。今回視察に行ったメンバーに社会教育を専門にやってきた人がどれだけおるのかなと思って見てたけど、そんなにいてなさそうだし、今度は新潟とか、あそこらへんはコミスクも進んでるし、山口県はたぶんコミスク 100%です。山口県で小中一貫がどこまでやってるかはわからんけど。大阪の近場で行くと河内長野はコミスク 100%やってると思います。その辺との聞き取り調査、施設はまだやと思うんですけど、今後の地域とかかわる理想像をもう少し勉強して学校教育に繋げてほしいなと思います。学校教育だけやったらどうしても歪が出るし、折角田尻町の 8000 人の大家族で、子どもに関わろうと思ってる大人の割合が多い、よそよりも多いというのは確かなので、この気持ちを大切にできるような施設になればなと思います。
- (委員) 子ども会の会長をさせてもらってて、社会教育というところで、スペースの話が結構出てきたと思うんですけど、現在の方針が現地建て替えということで進んでますけれども、建物を大きくするようになってきて、教育スペースを広げようというような理想的なものを見させていただきましたが、そうなるとグラウンドが狭くなってきたり、子ども会を含め社会教育で使える場所が狭くなってきたり、ましてや文化ホールの建て替えで吉見グラウンドがなくなる。つまりグラウンドが田尻町にはなくなるんですね。そうすると、社会教育をする場所がないとか、子どもたちが騒げる場所がないというところで、今すぐいいものを見させてもらったんですけど、スケールがでかくて、敷地もでかすぎて、なんか議論しにくいなと感じました。敷地が十分にあるのであれば、理想の物を審議していけばいいと思うんですけど、よく言う田尻町に見合った審議をしていかないといけないのかなというふうに感じました。
- (会長) はい。貴重な意見ありがとうございます。次の次第 6 に移りたいと思います。議題 6 は「児童生徒の交流のための教育環境」あるいは、「校種間の教職員が連携するための環境」について事務局より説明を受けた後に、またご意見ご質問を受けたいと思います。では事務局より説明をお願いします。
- (事務局) 今回のテーマ設定につきましては、先程事務局からの視察報告にもありましたように、0 歳から 15 歳までのお子さんが 1 つの建物の中で、自然発生的に交流が生み出される環境の中で育つことで、異学年の関わりが生まれ、より成長につながるのではないかという視点を持っています。もう 1 つは、こども園・小学校・中学校それぞれ所属の先生たちの交流を生み出すような環境でなければ、本当の意味での一貫した子育てが難しくなるのではないかという考えのもと、今回の議題を設定させていただきました。例えば、支援学校では同じ建物の中に小学部、中学部と異なる組織が共存している中、教職員同士が交流する仕掛けをどの

ようにしているのか。企業においては、部、課をまたいだ協働が生まれる仕掛けについてご助言等いただきたいと思います。さらに地域との関わりでは、子ども同士、大人同士、子どもと大人などの交流が自然発生的に生み出される環境についてアイデアをいただけるとありがたいです。ご審議どうぞよろしくお願いたします。

(委員) 最近のことでいうと、七夕がありましたよね。エンゼルでは飾りつけをします。小学校でもあるかと思います。そういうのを一緒にできたらいいのかと思います。中学生が園児と一緒にするとかがあるかいいと思います。うち、一番上が高校生で、下が年中でおるんですけど、上の子が高校の友だちとスーパーに行った時に3歳ぐらいの子がギャン泣きしてたみたいで、お母さんがなだめてどっか行ったんですけど、うちの子は「ああ、かわいいなあ。」と下の子がいるから思ったらいいんですけど、その友だちは兄弟がいるかわからないんですけど、「え？めっちゃうるさかったやん。」という感情やったらしくて、「何で、あんな感情なん？」て聞かれて、やっぱり交流がないと、全く同じ年でも全然違う感情を抱くから、やっぱりちっちゃい子との交流って大事なんやなって思いましたね。

(会長) はい。ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(委員) 交流ってことがすごく気になってるんですけど、保幼小中って一貫校になるでしょ。それ保幼と小学校と中学校の交流するタイミングがわからなくて、授業時間も違うし、どこで交流するのかなって。45分授業と50分授業じゃないですか。それを45分授業にしましょうってなると、中学校は授業時間が足りないから、親としては勉強時間どうなんかなとか、授業はどうなんかなっていうのはあります。

(委員) 避難訓練よかったです。保幼小中全員で。中学生が下の子を抱っこしている姿も見られました。

(委員) ちょっと前置きさせてもらって、私は引いて考える癖がありまして、そもそも小学校中学校って100年続いた6・3・3制ってあるじゃないですか。基本的に小学校は、中学校と別々の建物で離れてますよね。田尻は1つの敷地の中に小学校、中学校があるんですけど、冷静に見たら、小学生は小学校門から入ってきますし、中学生は中学校門から入ってきますんで、幼小中が一緒になって暮らしてるっていうところまではいってないんです。まず、そこを変えていかないといけないなって思ってるんです。なので、1つのおっきな建物になったら、1つの大きな門から1年生から6年生、中学3年生までみんなそこから入ってきて、玄関があって、靴箱があって、そこからエリアに分かれていくっていうような建物にするのかしないのか。で、そこにエンゼルさんは離れてますけど、将来的にエンゼルも入ってくるんだったらそのスペースもおいておくのかどうかとか、そんな過去50年、100年やってきた学校の制度から、これから50年、100年後1つの学校としてやっていくとなると、そういう引いた大きな視点で1つになっていく。行事の交流とか以前に、毎日の暮らしを1つにしていくっていうことがまずあるんじゃないかなって私は思ってます。で、先程ちょっと出てきた、行事の交流なんですけども、そこに向けて今、教職員の私たちは機運づくりっていうのと、交流行事を増やしていこうっていう動きをやってます。今年は3つやりたいと思ってます。1つ目が合同避難訓練、これもう、エンゼルさんも来てみんなで小学校の屋上へ全部上がったんです。教職員と生徒、児童を全部入れたらほぼ1000人近くの子どもと大人が屋上に上がったと、これまあ1つのすごい行事ですし、秋にちょっとできるかどうかまだわからないんですけど、体育交流っていうのをしたいなって思ってます。で今ねエンゼルさんはエンゼルさんの運動会ってありますよね。小学校は小学校の運動会、中学校は体育祭、それぞれの行事が自分たちの発達段階にあった内容で、そこに特化した行事をやってるんですけど、

みんなで一緒になるって言ったら、合わさないといけないわけですよ。自分たちがもっとやりたいことを諦めたりしながら、その代わり交流をするよさっていうものを大事にしていくってことになるので、これからそういうものを増やしていきたいって思ってますし、一貫校ができた場合は、もちろん全員で運動会もしたいですし、みんなで文化祭とか、あ、もう1つ今年度計画してるのが、図画作品展のエンゼル・小学校・中学校の作品を小学校の校舎に全部集めて、みんなで見合っしょい、交流しようって考えてます。そういうことも含めて、なんていうんですかね、先程おっしゃったように、授業っていうのは45分と50分でバラバラですけど、それはこっち置いといて、一緒になって暮らす時間とか、クラスゾーンとかエリアとか行事とか、というところでどうやって交流できるかなっていうのを考えていけばいろいろなことができてくるのかなって思ってます。

(委員) それってイベント的な交流なのか、日常的な交流なのかっていうところだと思うんですよ。委員が言うのは日常的な交流は難しいんじゃないのかっていうことだと思うんです。

(委員) いや、だから日常的な交流っていうのは、門が1つで、玄関も1つで、要するにあの、図書室も大きな図書室が真ん中にバァンとあったら、中学校の子どもたちが読むエリア、小学校の子が読むエリアってあるじゃないですか。そんな風な感じの造りにしていく。まずはそれが先にあるのかなっていう。その中で、さっきも言うたように行事っていうのは、エンゼルの行事、小学校の行事、中学校の行事ってあるんですけど、一緒にできるものは1つにしていく、それぞれでやる行事もまたあると思うんですけど、まあそんなところはこれから考えていけるのかなと。

(委員) たぶん現地建て替えになって、それこそ正門の位置でとても揉めると思いますよ。この田尻町。これ上につくると同じ揉め方になるのではないかなと思います。

(委員) そら、田尻メインロードになるんじゃないですか。

(委員) とりあえず正門の位置で変わります。細かなカリキュラムは先生に任せるしかないけど、今回建物の話やと思うんで、建物言いますけど、普通入り口は1つ正門って決めないといけませんよね。正門入ってきたら、変な話、一番便利がええのはエンゼル、エンゼルが近いとこ。普通そう考えるんやけど、社会教育の観点から危機管理という部分では、そない入り口に近かったらあかんちゃうんみたいな。まずは高学年、中学校から、正門に近いとこに来る。奥でエンゼルのちっちゃい子。0から2歳とか。これ公にはでけへんけど、中学生がちっちゃい子を不審者から守るんやでみたいな。言われへんけども、そういう意識。僕たちがゲートキーパーだみたいな、なんかそんな意識もやりながら小さい子も守ってるんやどって感情を持ってもらったりとか。そんな仕掛けとかを議論していった方がだいぶ面白いと思います。地域の人が入ってくるとなると、豊中の公民分館、豊中市の各中学校に公民分館があって、学校敷地内の余裕教室を公民館にしています。いろんな人がそこで、大正琴やったりしています。なので豊中の中学校には基本、不審者は入りにくい。入りづらい。入られない。という門に近い余裕教室を地域の人が使っている、知らん人が入りづらいというシステムになってます。ああいうのんも社会教育というスペースを入りに近いところで門番としてつくるっていうのも1つやし、高学年の子がちっちゃい子を見て、かわいくて面倒見てるっていう仕掛けのあるような配置っていうのも必要ちゃうかな。

(会長) はい。ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(委員) 先程交流の話が出ていましたが、ここ数年はコロナでできていないんですけど、中学校の裏手がエンゼルさんになるので、中学生が合唱コンクールの練習をしているときに、エンゼルさんとの交流があって、練習しているときにエンゼルさんから「見に行かせてもらっていい

ですか？」って連絡があるんです。そしたら「体育館に来てください」って話になって、まずお兄ちゃんたちの歌っているのを聞いて、そのあとにエンゼルでも3学期に歌うからどれだけ声出るか聞いてもらうっていう入れ替わりで歌うこともありました。そんな交流は総合とか学活で調整しながら今までもやっていました。水泳とかでもコロナの前は、大きいプールで中学3年生たちがエンゼルの子を抱っこして一緒に入ったりとか、校庭の植物がきれいな時は、連絡をもらって入って見学したりもしています。こういうものは行事じゃないんですけど、その時々でやっていたんです。この辺はうまく整理して自然な感じで、季節にも合わせてできたらいいなという思いで今までやってきていました。

(委員) 給食交流みたいなのはあるんですか。給食を一緒に食べようみたいな。中学生とエンゼルさんが一緒に食べるとか。大人も飲みに行って信頼関係築くわけやし、やっぱり食で信頼関係作るって、大人やってるんやから子どももやったらええのになって。

(委員) 今度給食場一緒になったらできるんちゃうん。

(委員) 給食場って1つじゃないんですか。

(委員) いや。エンゼルは別や。だから今は移動するのは衛生上無理やな。だから中学校と小学校はできるんちゃう。

(委員) 結局先生って総数何人ぐらいいてるん。単純計算で足し算でいけるん。減るん、増えるん。

(事務局) 想像の範囲にはなりますが、先程学校種の話も出ていましたが、角鹿のように小学校と中学校が別の場合、単純に合算になります。義務教育学校になると、1つの学校という計算になるので、職員の数は減るという可能性もあるかなと思います。

(委員) 増えるということはないん。

(委員) 義務教育学校やと、少なくとも校長は1人になるやん。

(委員) 増えることがないのなら、それこそ職員室。広い職員室やったら、校長のところに行くまで針の筵やろなとか。

(事務局) 正直増えるということは想定しにくいと思っています。

(委員) ほな、100人ぐらいいってこと。先生の数。

(委員) 非常勤も入れたら、小学校は37、8、中学校は26、エンゼルは昼夜いろんな人を合わせたら60人ぐらい。

(委員) 職員室は100人規模になるっちゅうことやな。

(委員) ちょっと今の人数の話いいですか。前任校の児童が714人だったんですけど、今の小と中合わせたら700ぐらいだと思うんです。1つの学校になって、1年生から9年生になったら、義務教育学校ですから校長は1人、800人の校長も1人だし、だから700人の義務教育学校も1人になりますね。するとなぜ250と450の小と中で分かれていると、校長・校長・教頭・教頭になるかっていうと、小学校は小学校のやり方、中学校は中学校のやり方があり、長がいないと判断できないということで、2人いると。1つになるっていうことは1年から9年までの義務教育学校にしてしまうのだったら、1人校長を作って、規模が大きいから第1教頭、第2教頭と3人にしようかという話になってくるので、これが1つの敷地内に一応、小学校と中学校が入っている形にしとけば、それは校長2人、教頭2人で1つになっていく努力もできるので、おそらくメリット、デメリットがあると思うんですよ。どっちにいくかっていうのは。なかなか1人の校長になっていったら、なかなか最初はしんどいってうか。今年小学校3年生の担任やったけど、来年は中学2年生の担任ねっていう風に教員が両方の免許を持っててね、動けるようになってくればいけますけど、やっぱり小学校の免許、中学校の免許だけっていうのが何人もいますので、そうなるとやっぱり2つに分かれて

始まるのかなって感じはもっています。

- (委員) 民間でもそうやけど、頭が2人おったら、そら…ね、無理でしょ。校種間の職員が連携するための環境っていうのも、頭2人おったらそら分かれるっすよ。
- (委員) おっしゃる通り。実際小学校も中学校も2人トップがおるわけやから、中学校は中学校の文化、小学校は小学校の文化でやってるから。いくつかは合同でやることもあるけど、やっぱり違うんですね。それを1つにするには、校長先生も1人になっていくような方向に向かうのか、それとも今の形でより交流を進めるのか、私たちも悩ましいなって思ってます。
- (委員) 後々職員室は1つになるわな。
- (委員) いやいや。校長が2人おったら、職員室は2つ。
- (委員) せやけど義務教育学校って、昨年度決まったんちゃうかったっけ。
- (委員) いや。決まってるはない。それはそうと、私、日本人学校に行ってみて、日本人学校は小中一緒なんですよ。で、校長は1人です。なので、1つの職員室に、中学校の先生、小学校の先生と一緒に職員会議もやって、終わったら中学校は中学校の校舎へ行き、小学校は45分でチャイムなってるし、中学校は50分でチャイムなってるしというね。頭は1人です。
- (委員) 角鹿は頭2人おったんですか。
- (事務局) ここは1人でした。
- (委員) 頭はトップになるけど、ピラミッドは大きくなるやんか。絶対中間管理職みたいな人を増やさんと逆にやりにくいやんか。1系統では無理やんか。一緒にしよう言うても15歳と2歳の子しようと思ったら、部門分けは絶対についてくるやろう。職員会議も長引くんかなあ。田尻はメンバーいいからみんな連携してやってくれてるんで、どんな校長が来てもみんなが一体になれるように、トップにも関わるけど、先生って個人事業主って思ってる人も中にはおるのでね、校長がなんぼ言うてもわしゃこう思てんねんみたいな先生もおるので、その辺のことを考えると、やっぱり数は力で、1つにまとめとかなと、あんまり突拍子もないことやられても…それもリーダー力かあ。
- (委員) 教育委員会さんはどないなってるんやろ。教育長さんおって、部長さんおって、推進課長おって、管理課長いてるじゃないですか。何かこういう連携って、ピラミッドできてるけど、横の連携ってできてるんかな。それと一緒にみたいなもんじゃないですか。それか派閥に分かれて、こっちの課はこっちの課みたいになってたら、結局小中も同じようになるってことですもんね。
- (会長) お話が教職員の連携に入ってきているようですので、そちらに焦点を絞っていきたいと思うのですが、その観点で行くと、企業の方で違う部なり課なりがどんな風に交流しているのかとか、今日は施設の話ですので、交流を生み出すためにどのようなスペースづくり、例えば自分の机を持たないフリーデスク制を取られているところもありますし、ICTなんかを使って、遠隔だけれども他の課の方とお話しできるようにしているとかいろいろあるかと思うんですが。
- (委員) そうですね。考えながらもなかなかアイデアが思い浮かばないんですが、コロナが始まる前はフリーアドレスという形で、部単位ですけれども、どこに座ってもいいよと、例えば1人で籠りたいときはそうできるように。あとはみんな集まるような円卓に座って仕事をするなどありました。ただコロナが始まってから状況が変わりまして、あまりいろんなところへ行くなという。そもそもリモートワークが始まったというのがあって、今はフリーアドレスを止めてる状態です。リモートワークになると、ますますコミュニケーションの場というものが減りました。それまでも特にレクリエーションとかはなく、顔を合わせたら話すと

か、仕事では当然交流はあるんですけど、なくなってきていることは我々としても課題に感じているところです。それをどう解消すべきかって言うか、正直言うと交流がないからと言って会社の場合は仕事が回らないというのはないので、どこまでやる必要があるのかっていうのはあるんですけど、やはり顔がわからないとどこに問い合わせたらいいのかわからなかったり、誰に相談したらいいのかわからなかったりというは出てくると思ってまして、それを解消するためには、1つの案として、顔がわからなくても何をしているのわかるシステムを、社員1人1人の顔がわかるシステムが必要だと考えています。それとシステム内で、オンライン会議などができるようにとも思っています。それが教育にどう生かせるかはわからないんですけど、企業の動きとしてはそんな形です。

(会 長) ありがとうございます。今のフリーアドレスなんかを学校の職員室に取り入れるというのも1つのアイデアかなと思います。小学校、中学校、こども園の方ではそれぞれの先生が自分の机を持ってらっしゃるのでしょうか。こども園の話聞いていてこれは考えなければいけないなと思ったのが、小中学校の先生は基本正規の方が多く、働く時間が朝から夕方までと決まっていますけれども、こども園の先生はパートタイムで働いている方もいますし、そもそも出勤時間、退勤時間も変わってくる。働き方そのものが違う方がいらっしゃるということで、ものすごく難しい課題だともいます。

(委 員) 小学校中学校の職員の動きは正直、よくわからないんですが、朝朝礼をして教室に上がったらあまり降りてこないんだろうなとは思いますが。田尻町立保育所・幼稚園は1つの施設に2つが存在してまして、昨年度までは、0から2歳の乳児職員室と、3から5歳の幼児職員室が真ん中の保健室で隔てられてて、つながって入るんですけど、誰がどこに座っているのか見えない状態で、ずっと10何年間やってきたんですけど、こども園に移行するというので、この度職員室を1か所にしたんですね。さすがに先生方も抵抗は正直ありました。私も大丈夫かなっていうのはあったんですけど、同じ場に机を置くことで、空気感を感じるというか、「今座ってるんや。今戻ってきてるんや。」とか。その中にも乳児の島と幼児の島を作っているの、お互い保育から戻ってこれる時間が違うっていうのもわかるようになりましたし、夕方事務仕事をしながら喋ってる話題も、何となく漏れ聞こえてくることで理解できるっていうのは、お互い教え合わなくても感じるものなんだなって実感はあります。まだ小中の先生ともって言うのは難しいんですが、今までは電話1本しかなかったのが、今は校務支援で繋がれるようになりましたので、連絡を入れておいて後で返事を見れるようになりました。こども園の施設でも担任しか机はありませんので、朝の先生と夕方の先生の連携は難しいのが現状です。

(委 員) 理想の話とか、現実問題敷地が狭いという理想と現実のギャップがあるという田尻特有の大きな課題だと思って、スペースが広い方がいいっていうのは皆さんの思いやし、そんな必要ないって意見は全くないわけで、できるだけ狭いスペースの中でも、共有のスペース、ゆとりのスペースをできるだけ生み出してほしい。結論的にはそういう話かなと思いますね。もう1つの交流できるスペースはできるだけ生み出してほしい。もう1つ大きい課題としては、小中一貫型で別々の校長さんがおって、一貫型の教育をするのか、義務教育学校で校長さん1人の形を目指すのかということなんですけども、ある日学校を建て替えたときに、いきなり義務教育学校っていうのもまだまだ他の建物が残っている状態では、いきなりっていうのは現実的に難しい。前回の議論でもあったように義務教育学校にするためには教員免許の課題もあるということなんで、いきなりの移行は難しい問題。現実問題としては、可能かどうかちょっとわからないですけど、当面は施設一体型の学校で、将来的に義務教育

学校に転換できるような段階になれば移行していくと、それが一番現実的かなと。職員室については1つの部屋でいけるように最初に作っておく。途中から変更はきかないんですか。建て替えるときは先を見据えて、職員室は一旦まとめるとかは決めておかないと。

(委員) 途中でエンゼルが入ってくるとかなったら、小中はもうここまでやってんねんみたいになって、ちょっとということ聞けよってなったら嫌やからな。

(委員) そこまで一緒にできるんやったら、最初から一緒にいいと思うけどな。

(委員) だから、ハード、スペースは最初から作っておいて、移行期は管理職が何人おってもいいし、強いリーダーシップがあったらできることやろうと思うけど、やっぱり1つにするべきだと思う。

(委員) ハードとしては1つにするべきだと思う。制度的なもの、ソフトについては段階的に移行していったらいいんじゃないかと、それが現実的。

(委員) 今までの流れを知らん管理職が来たらなかなかしんどいと思う。ソフト面に関しては先生方に期待するよ。実際子どもたちを教えるわけじゃない我々が言えることはないし。カリキュラムも考えてもうて。だけど我々は地域として、どれだけ子どもに関わっていけるのか、今の子どもは自尊感情が低いとか、いろいろ言われるけど、昔ボロボロの木造校舎でも、昔の子どもってすごく自立してるし、それはなぜかって言うたら社会教育が発達してたからやと思うねん。何回も言ったんやけど、社会教育がないと子どもは立派に育たないと思ってるから、地域とちゃんと関わって、地域が関わったら施設はどうでもいいってぐらい思ってるから。その辺を施設ができたからじゃなくって、その施設を地域の人とどう使うのか、どう関わっていけるんかっていうのをソフトを考えてくれる先生たちが考えてやってほしいなと思います。

(会長) 教職員の連携でいうと、私がこういうことを引っ掻き回すことになるかもしれないんですけど、職員室の在り方そのものも考えていかないといけないのかと思うところもあります。今まで見てきたものの中で2つ例があるんですが、その1つ目が職員室にほとんど壁がないものです。要するに今日の角鹿でいうメディアセンターの位置に職員室があるということになります。今までの日本の学校の職員室というのは、閉じられていて、皆さんが小学生の頃もノックをして入ったかと思うんですけども、児童生徒と先生の居場所が物理的に壁で仕切られているので、それを取り払うという形のものになります。あとは、職員室そのものを解体している学校もありました。職員が集まって朝礼や職員会議をするのは会議室で、先生が日常いる場所が職員室ではなくて、各フロアにオープンな形で学年の部屋のようになっているものもあります。普段授業が終わった後も、職員室ではなく、その廊下のスペースに集まって話し、休み時間の子どもの様子を見ることができるといった職員室の在り方を取り入れている学校もありました。職員同士の交流と同時に、職員と子どもとの交流の観点でも施設面を考えてみるということもありかなと思います。ただオープンな形で行くと、成績とか個人情報はどうするかという課題はあるんですけどね。何か教職員の交流について他にございますでしょうか。

(委員) 今お聞きしてそういえばと思ったのが、小学校は学級担任になってますよね。中学校は学年なので1年生の授業やったら、1年生の空いてる先生が廊下でいてるんです。机を出してそこでパソコンを触ったりとか、子どもがおなか痛くなったり、しんどくなったら、廊下の先生に言ってみたいな感じで、冬はめちゃくちゃ寒いです。コートとかを被りながらやってるんで、間でそんなスペースがあったら、ちょっと相談するのももいいかなと思います。中学校の職員室はほとんど先生が帰ってきません。テストを作ったりはあるんですけど。そ

のほとんどがクラブ終わってからになるので、1時間目から6時間目の授業中は、先生が廊下にいるのが当たり前になってますね。だからそんなこじんまりしたところがあったら嬉しいですね。子どもたちをしょっちゅう見れるのがいいですね。

(会長) 話の焦点を、児童生徒の交流のための教育環境に移して、ぜひご意見を伺いたいと思います。これまでも行事の話であったり、日常での交流の話があったと思います。行事の観点でいうと、その中で異学年の子どもが関わる。日常の交流は、今日紹介のあった角鹿みたいに小中学生が一緒に使うメディアセンターをつくるのか。あるいは異学年で交流するスペースや施設の確保が必要になってくると思います。先程出ていた日常での交流でいうと、正門をどこにするかというお話もありました。下駄箱も小中一緒にするのか、分けるのかとか、また大人の飲み会と同じで、お昼ご飯を一緒に食べたり、給食をランチルームで食べることはあるんです。毎日ではないんですが、週1回は1年生と6年生がそこで食べるとか、小中一貫の場合には、小学生と中学生が食べるなど、日常での交流を考えた時にどのような施設・設備が必要かということもご意見が頂ければと思います。私が見てきたものの中で、そういうものもあるんだと思ったものが、廊下や階段を広くとったところにベンチを置いている学校がありました。このベンチは子どもにすごく好評ですと聞きました。ちょっと廊下に出たときに、中学生とかはクラスが違う子どもと話したいというのがあるので、そういったときに他のクラスに行くんじゃなくて、廊下に出て話したりとか、階段で出会ったときにそのベンチで話したりしていると聞きました。そういう意味でも子どもの居場所になっているようです。海外の学校でよく見かけるのは、カーペット敷きの地べたで座ったり、寝転んだりできるフリースペースを各所に設けている所で、休み時間に友だちとおしゃべりしている姿をよく見かけます。ただゴロゴロしたりするスペースとしても使われています。子どもたちにとって学校が居心地のいい場所になるような視点で意見を出していただけると、それが交流に繋がっていくのではと思います。いきなりは難しいと思いますので、まずはこういうものがあつたらいいなというところから考えていただければと思います。

(委員) 先生の言う通り、教室の前の廊下を広くとって、テーブルと椅子があつて、サロンのようなものも、階段踊り場のベンチもすごく有効だと思います。全国的には、図書室もごろ寝図書室とかも流行ってるんで、カーペット敷きもいいでしょう。ただ、過保護と学習環境のバランスと言うか、難しいけれども悩んでいるところがあつて、夏の暑い中エアコンというのは子どもが集中できるように必要やと思うけれども、果たしてそれがほんまにええもんやろかっていう大きな葛藤があるのよ。なんていうんやろ。扇風機じゃあかんみたいな。それするから、家帰ってきたらクーラーつけてという話になるやろ。いつも私は悩むんです。施設で考えたら、こういうスペースは必要やし、あるに越したことはないんやろうけど、その辺どうなんやろ。ライン引きはあるんかな。

(委員) そもそも家と一緒に敷地面積限られてるのに、リビングも応接室も欲しいって言われへんのやから、428名の子どもに対して、延床がどれくらいあつて、これだけの施設ができていのかってわかるんですか。

(事務局) 敷地で約20,000平米ですね。

(委員) ようわかれへんですけど。ここですのなら上しかないよ。低学年から中学生まで階層分けでやるぐらいのつもりじゃないと無理やでとは言ってるから、ええ話するんやったらそれしかないんよ。

(委員) それはいけるんですか。上に上に欲しいもん、スペースくれているたらいけるもんなん。

(委員) だから、その議論になってしまうからね。先にそれをカチッと決めないと、限られたスパー

スの中で考えないと、社会教育に関して言うから、学校教育で大丈夫でも私が意見言うたらまた広くなるから。そこら辺の葛藤が非常にあるのよ。限られた場所での議論をしなあかんのやから、先にこんなスペース・部屋・施設欲しいよなって議論じゃなくて、家建てる時でも逆なような。ここでは、言いたいこと言うだけ言って設計屋さんが頑張るみたいやで。がんばってもらおう。

(委員) 私、前任が4階建ての学校やったんです。今の田尻小中は3階じゃないですか。4階は絶対だと思います。現地建て替えて、求めているものをつくろうと思うと、4階は絶対かなって思います。4階建てで暮らした者としては、全然問題なかったです。6年生が4階にいたんですけどね。エレベーターは1本ありましたが、障がいのある方や地域の高齢者はそれを使って上がってもらいますし、骨折した子もいますので、そういう子も使うといった感じでいけると思います。机もサイズの大きい天板が出てまして、教科書もB5からA4に変わってきてまして、今は机が小さいんですね。佐野は大きい机が入ってるので、机の大きさが120%になるのであれば、教室も廊下もすべて120%ぐらいに広げるとか、ロッカーも1人1つなんですけど、そもそもそれが厳しい。先生から出てくる言葉は、「小さい・狭い・少ない」この3拍子が出てくるんで、広げる、ロッカーも増やすと言ったことをしないといけないので、そうなかったら、狭いエリアを工夫して広げていって、上にあげてみたいな、そういうことを細かく詰めていってやっていくんかあって思ってます。合体して職員室も1つにしようとなったら、結構無駄なスペースが寄っていくので、大きなグラウンドがこっちにとれるんじゃないかなって思ったりはします。あとはプール。門真の学校を見に行ったら屋上にプールがあったんですけど、今町営プールをどうするかという話もあると思うんですけど、そんなんも入れてやっていけば、まだまだ可能性のある話かなと。そんなに狭いんじゃないと私は感じています。

(委員) 生徒の交流という意味で、泉南市や岸和田市は併設園なので、小学校の休憩時間に合わせて、安全面を確保したうえで、施錠している所を開錠して、交流する曜日をつくったりとかすることで、あえて交流しましょうと寄り合わなくても、小中の時間割の中で就学前が比較的融通が利くところも合わせると、自然な交流ができるのではと思います。併設しているのならそういうことをすると、きっと先生もついていくので、それがお互いを知る、先生同士の距離感を詰めることにもなり、日常の中で積み上げていくことができるのではと思います。小さい子は衛生面への配慮もあるので、ガラス張りの環境で、子どもたちの様子を覗けるような環境もいいのかと思います。というのも、中学生がクラブがない時に、下校していくとき、門にへばりついていることがあるんです。所庭を覗いてるんですね。結構長い時間ずっといてのを見たことがあって。「何してるの」って思わず声を掛けたら、「いや、かわいいからずっと見てんねん」って言って、何かそんなエリアとか空間があればいいなって思います。

(委員) 中学生は、エンゼルや小学校低学年の子と関わると、どの子も優しい顔になります。ちょっと思春期で先生に対して「フンっ」ってやってる子も、小さい子見てるときは、こんな顔見たことないっていうくらいいい顔をするんです。近くにいる小さい子、守ってあげないとって思う子がいてるだけで子どもたちは落ち着いてくるんです。それで一緒に何かやれたら、もっと距離が近くなってということがあります。前の学校では夏休みに園児と遊ぼうとかで連れて行ったりしてたんですけど、かなりの倍率なのに、1回行ったら、また来年も行きたいわとか言うような。いろんな思いを抱えた子どもたちがいるんですけど、そこがちょっとずつ和らいで成長できるんですね。大人になろうとしてて、まだなり切れないという中学生が、

自分が小さかった頃を客観的に見ると、いろいろ思い出したりという時間が子どもたちをぐっと成長させるので、いろんな年齢の子がいてるっていうのは、田尻町の一番いいなって思うところですよ。

(委員) 子どもたちの交流というところで、最初の方で交流の機運をつくりたいっていうお話があったと思うんですが、逆に言えば機運をつくらなかったら交流は難しいみたいなそういう側面があるのかなって思います。運動会を小中一緒にやりましょうってなったら、場所とか時間の制限が出てきて、ほんとはもっとやりたいけども、小学校に譲らなくちゃいけないからここまでにしとこうみたいな、いろんな制限がかかってきてできなかったりすることもあるので、やっぱり交流って基本的にすごく手間のかかるものなんだと思うんですね。だけど、手間がかかる中にこそ良さがあるって話なんですね。開かれたスペースっていうのは可能性はあるんですが、今の現状でいうと、どこが一番関わるかっていうと、教室に向かう動線がどうしてもかち合っちゃうところがあって、そこで何が起きるかっていうと、中学生が小学生に譲ってくれたりするんです。ほんとは中学生でも自分のペースで行きたい子はたくさんいるんですが、待ってくれる。そういうところに日常的にささやかな交流とか関わりがあったりして、確かに困る面もあるんですけど、そういうところに交流って生まれたりするので、校門を1つにして、ごった返すとしても、その中で交流が生まれるとかもあるので、スムーズで過ごしやすいただけじゃなくて、ちょっとぶつかり合うみたいな発想ももしかしたら必要なかもって。先程の便利なだけじゃないっていうのとも繋がるのかなと思います。でも、安全上難しいですよそういうの。

(委員) それがおもしろい。よう知ってそういうところを作るっていうのも手やわな。何かの時に逃げ遅れたらあかんけど、そういう意図した仕掛けもなんかあっても面白いかもわからんな。

(会長) ありがとうございます。そろそろ閉会に向けて話を進めていかなければいけないんですが、その他何かご意見等ございますでしょうか。なければ、以上で本日の議題は終わらせていただきます。

#### ⑥その他

事務局より、第2回検討委員会の開催日の連絡を行いました。